

地域に根差した図書館について(委員意見要旨)

川口	○スタッフには子どもに対する温かいまなざしを向けて欲しい。自分に寄り添ってもらえると子どもが感じるような安心感を与えてもらえたらと思う
	○世代に関係なく、質問をしやすい雰囲気は必要だと感じる
	○地域住民のコミュニティの場として、どの世代も居心地のよい空間を作ることで、異世代間の交流がうまれるような図書館であったら素晴らしいと思う
	○読み聞かせ支援 ・家庭での読書活動推進(保育者向け啓蒙活動)に関する講演会などは、1回で終わりではなく場所を変えて区内他館でも複数回開催して欲しい。同じ地域の保護者が同じ話を聞くことで情報を共有し意見を出して刺激を受けあえる ・知り合いもいない場所でたったひとりで聞く講演会は、良い話と思いつつ聞いて終わりで行動につながらないことも多いので、大規模な講演会より身近なところで聞く機会を持たせたい
伊藤	○インターネットやSNSなどを活用した情報発信を行うこと(おすすめ本やイベント情報など)
	○区民が優先的に利用できるシステムを構築すること
	○町会・幼稚園・保育園・その他各種団体との連携を図ること
黒田	○今以上に住民、利用者の要望を聞き取ることが必要かと思う。現在の「区民の声」や「図書館アンケート」などの受身の対応だけでなく、積極的な聞き取りを行うことを検討してはいかか
	○定期的なメルマガ配信で図書館情報への関心を高めることや、ツイッター、フェイスブックといったあらたなツールを検討し、積極的な広報活動を行う
	○年度計画、目標の策定をし、毎年その評価を公表することがサービスやスタッフのレベル向上に役立つのではないか
永田	○職員の異動が少ないこと
	○資料検索(所在)が容易なこと
	○多機能化が図れること
串田	○職員が地域のことを勉強し、地域密着型にするために地域の行事等に参加し交流を深める
有泉	○利用者アンケートをとり要望を聞いてはどうか。改善点の即実行は要する ・投書が制度としてあるならば、回答も一定期間、館内、あるいはホームページに掲載する必要がある
	○分担制は他地域にとってむしろ不便である
	○小館まで含めて、区内の図書館をすべて横並びの体制にするなら、図書館や地区による格差や不便は解消すべきである
	○地域の小館は気軽に行ける図書館、あるいは取次室としては評価する。通りがかりに、雑誌等、軽い読み物を見るにはいいかもしれない。だがそれだけでは、「地域の」書店、あるいはアマゾン等との差はほとんどなく、魅力は欠ける
	○図書館は利用が減れば予算削減や統廃合の対象となる可能性は避けられない
	○中央館とて、名ばかりで、実質的にその機能に欠ければ、単なる小館と変わりはない
	○大学生以上の世代(確実に成果を出してくれる世代)に焦点を当ててもいいのではないか
	○本来、文化の発信地であるはずの図書館がみすぼらしい状態は「文の京」の謳いに反する
	○区の財政を利用して収集した資料、書籍を盗難のままにし、散逸の憂き目に合わせるのは管理する側の立場として無責任ではないか
○少しでも水準の高いサービスを提供できる図書館を区立に求めたい	
恩田	○地区館で開催するイベントのジャンルを、分担収集している資料のジャンルと一致させ、地区館ごとの特徴を明確にする
	○中央館では実施しないサービスを実施して、利用者にアピールする 例: 会話による打合せがOKなエリアを有する地区館 読み聞かせスペースを広めに取った親子に優しい地区館
	○区役所の戸籍住民課エリア付近に図書館カードが作成できるブースを設置。他市区町村からの転入手続等、積極的に新住所最寄りの地区館を紹介し、利用登録を促す